

平成25年度 石見銀山基金事業

石見銀山学習概要報告集

目 次

○ 中 学 校

第 一	・ ・ ・	1
第 二	・ ・ ・	3
北 三 瓶	・ ・ ・	5
第 三	・ ・ ・	7
温 泉	・ ・ ・	9
仁 摩	・ ・ ・	11

○ 小 学 校

長 久	・ ・ ・	13
五 十 猛	・ ・ ・	15
鳥 井	・ ・ ・	17
久 手	・ ・ ・	19
朝 波	・ ・ ・	21
4 班 連 合	・ ・ ・	23

(北三瓶、志学、池田)

川 合	・ ・ ・	25
久 屋	・ ・ ・	27
大 森	・ ・ ・	29
温 泉	・ ・ ・	31
仁 摩	・ ・ ・	33

～石見銀山に関するクイズをつくろう！！～

◆実施学年:大田市立第一中学校:3 年生(143名) 教員9人

◆目的:

- ①石見銀山に関するクイズをつくることによって石見銀山をより深く知る。
- ②作成したクイズをもとにクイズ大会を開き、更に石見銀山を深く知る。
- ③作成したクイズをもとに、「石見銀山クイズ集」か「石見銀山クイズマップ」をつくる。
(石見銀山を PR する。)

◆計画:

①ガイドンス(1h)

- ・石見銀山が世界遺産に登録された経緯の説明を聞く。
- ・目的を聞く。
- ・グループ(コース)分け

〈銀山地区コース〉

銀山公園⇒下河原吹屋跡⇒豊栄神社⇒清水寺⇒清水谷精錬所跡⇒大久保長安の墓⇒銀山公園

〈大森街並みコース〉

銀山公園⇒城上神社⇒熊谷家住宅⇒西性寺⇒観世音寺⇒旧河島家⇒栄泉寺⇒銀山公園

〈毛利元就コース〉

銀山公園⇒西本寺⇒豊栄神社⇒山吹城⇒銀山公園

〈商家等住宅遺跡コース〉

銀山公園⇒岡家(非公開)⇒熊谷家住宅⇒青山家(非公開)⇒旧河島家⇒柳原家(非公開)⇒阿部家(非公開)⇒
三宅家(非公開)⇒金森家(非公開)⇒(高橋家:非公開)⇒銀山公園

〈戦国時代前～江戸時代コース〉

銀山公園⇒城上神社⇒井戸神社⇒観世音寺⇒妙蓮寺⇒栄泉神社⇒下河原吹屋跡⇒西本寺⇒大久保長安の墓
⇒銀山公園

〈龍源寺間歩コース〉

銀山公園⇒龍源寺間歩⇒(銀山地区散策)⇒銀山公園

②事前学習(夏休みの課題)

- ・各グループが現地学習で回る箇所(人)について調べ学習をする。(「銀山新聞」作成)

③現地学習(9/19 木)(午前中)

- ・各コースで、ガイドさんの説明を聞きながら、1 班につき5個ずつクイズ(そのクイズの答え・解説も)作成する。
- ・学校へ帰ったのち、クイズを班ごとに仕上げる。

④事後学習(学年でクイズ大会)(2h)

- ・各班1～2問ずつクイズを出題し、班ごとに答える。(36班)
- ・クイズは選択問題方式で行い、合っていたら加点していく。
- ・いいクイズを考えた班を発表をする。
- ・銀山学習の感想を書く。

◆その他

- ・クイズ大会は、大田市立総合体育館で行う。(2h)
- ・クイズ集等は、できれば石見銀山の施設においていただく。(できが良ければ・・・)

◆生徒作成クイズ(数例)

Q 1 寺の門や建物の端にある、外側を向いている動物はいったい何の動物でしょうか？(←これはほとんどの寺にあったもの)

①へび ②こま犬 ③象

(答え:③ 昔、江戸に象がやってきたものの、本物の象を知らずに特徴だけで作り、魔除けとした。しかもこの象もこま犬と一緒に阿吽になっている。)

Q 2 町並みにある、木でつくられた小さな小屋のようなものは何に使うか？

①ごみ置き場

②野菜の直売所

③消火器入れ

(答え:① 町並みをきれいに见せるため。街の景観を守るため。)

Q 3 大久保石見守長安は、武田信玄に仕えたと言われています。さて、何として仕えたのでしょうか？

①料理人 ②芸人 ③武士

(答え:② 若い頃大久保長安は、武田信玄付きの芸人でした。後に徳川家康に仕え、石見銀山に派遣され支配する役につきました。)

Q 4 石見銀山の道路にはコンクリートに何が加えて作られているのでしょうか？

①銀 ②鉄 ③瓦

(答え:③ エコ対策として、使われなくなった瓦が使われている。)

Q 5 山吹城跡(頂上)からは、きれいな海が見えました。どこの海でしょう？

①多伎 ②波根 ③仁摩

(答え:③ 頂上からは仁摩の海、琴ヶ浜が見える。)

◆生徒の感想

銀山に行って、ガイドさんの話を聞くと、知らないことばかりで勉強になりました。現地でごみが全然落ちてなくて、きれいだったし、草刈など、定期的に行っていることを知って、本当に、この石見銀山は地域の人たちから、愛されてきたんだなあと思いました。

龍源寺間歩は、事前に調べていたこととちがってすごく大きくて、いくつもの間歩がありました。中でも一番驚いたのは、水を運ぶ間歩、空気を取り入れる間歩、移動するための間歩などがあり、銀を掘るための間歩だけではないということです。この銀山学習では、地元の僕でも知らないことがたくさん聞けたのですごくいい経験になりました。

現地学習の前の新聞作りで、毛利元就について調べたのですが、今まで勉強してきた社会の歴史的背景とつながるところがたくさんあって、もっともっと知りたくなりました。例えば、戦国時代に中国地方を治めるほどの毛利家が、石見銀山を手放す羽目になったのは、徳川家康が天下を統一して、天領にしてしまったからであること、元就がなぜあんなに銀をほしがったかという、ヨーロッパの国々と南蛮貿易をするためであったことなど、とても興味深かったです。現地学習では、山を登ってとてもきつかったですが、ものすごい達成感とすごい絶景を見られてとても良かったです。正直、私は今まで石見銀山はすごいものとは思っていませんでしたが、とてもすごいものなのだなと実感しました。

ガイドの方が話しているときにしゃべっている人がいたので、迷惑をかけているなと思いました。今後は悪かったことをしっかりと直して、一中生として、しっかりと取り組めればいいと思いました。

現地学習から帰るときに、先生がごみを拾っているのを見て、自分のことだけでなく、周りのことにも気を配らないといけないなと思いました。

◆反省と今後の課題

- ・体育館の建て替えと重なり、クイズ大会をすることが結局できずじまいだった。
- ・クイズの内容が、中学3年生としての適当でないものもある。しかし、石見銀山を知るきっかけにはなると感じる。事前学習等を教科と連携してやると良いかもしれない。

テーマ「石見銀山の魅力を伝えよう」

- 実施学年 1年生 82名
- 実施時期 11月 ～ 12月
- 学習のねらい

- ①大田市の誇る世界遺産・石見銀山について、知識・理解を深める。
- ②石見銀山の魅力を伝えることによって、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを愛する心を育てる。
- ③班別自主研修、事前学習を通して、自主性、協調性、社会性を身につける。

○ 学習内容

石見銀山については、小学校でも学習してきたが、その魅力や価値を大人になっても他の人へ伝える ことができるようにしようと、この活動に取り組んだ。

11月1日、石見銀山課より勝部衛氏を招いて、「世界遺産・石見銀山」について講演していただき、その魅力や価値についての概略を知ることができた。

続いて、各学級の班ごとに自分たちが調べたいテーマを決め、図書館司書の協力のもと、資料を使ってそれぞれのテーマについて調べた。また、班のテーマを踏まえて、自主研修での行程表を作り、研修当日に向けた準備も進めた。

11月20日、大森町の世界遺産センター、仙の山本谷・大久保間歩、大森町町並みで研修を行った。2クラスを4グループに分け、それぞれにガイドの会の方を付け、現地で遺跡を目の当たりにしながら、生き生きとしたお話をしていただき、生徒も驚きと感動の気持ちで研修することができた。

また、施設の方や観光客に元気にあいさつをすることで、石見銀山を気持ちよく歩くことができた。



世界遺産センターで説明を受ける。



本谷を上り、岩盤遺跡の前で。



大久保間歩に入坑。広い。



班のテーマに沿って町並み探索。



研修後それぞれの班で、当日見聞したことや調べたことを加え、この研修を通して学んだことを新聞にまとめ、廊下に展示した。保護者の方も見学される。

○ 生徒の感想

銀山学習では大久保間歩や熊谷家などに行きました。大久保間歩の中の壁は、いろいろな掘った跡が残っていて、昔掘られた所もきれいに残っていました。昔の人の苦労を実感することができました。熊谷家は国の重要文化財で、19世紀に作られた古い物がきれいに残っていてすごいと思いました。世界遺産が大田市にあることは素晴らしいことなので、誇りに思い、これからも石見銀山をいろいろな人に紹介したいです。

石見銀山には、小学校の時の学習で何度か行ったことがあります、中学校ではさらに詳しく知ることができました。テーマもとても興味のあることだったので楽しく学習できました。地域のよさにもわかったので、これからも新しい魅力を見つけられたらいいなと思いました。

自分たちのふるさとについて学習し、ふるさとに石見銀山という世界遺産があるのは、本当にうれしいことだと思いました。世界遺産センターで、歴史についても詳しく知ることができました。実際に大森の町を歩いて自分たちの決めた場所に行くのも楽しかったです。自然が豊かで、きれいな景色がたくさんあり、とてもすてきな町だと思いました。世界遺産をふくめて、豊かな自然をこれからも残していきたいです。

○ 学習の成果と課題

学校図書館資料からの情報で石見銀山についての情報・知識を得ることができ、現地では実際に見聞きし、体験することによって、世界遺産としての価値や魅力が実感できた。

石見銀山の魅力を知り、自分の言葉で新聞等にまとめることによって、生徒が石見銀山の魅力に自ら気づき、その価値を実感することができ、ふるさとへの誇りをもつよい学習となった。

集団行動や班別行動を通して、自主性、協調性、社会性を身につけることができ、特に現地でのあいさつは、みんなが元気よくできた。

石見銀山学習については、小学校でもかなり内容ある学習をしていると思うので、今後は積み上げてきたことを生かした学習内容にしていくことが求められる。そのためにも、早い段階で小学校時の学習内容を知り、みんなで共有し、それを前提とした学習を進めていくとよいと思う。

平成 25 年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

○実施学年・人数 第 1・2 学年 15 名

○実施日 4 月 19 日（金）

○学習のねらい

【ふるさとを知ろう】

- ・郷土の貴重な文化、歴史遺産について学習し、理解を図るとともに、その背景となった歴史や地域、文化、技術について学習する。
- ・この地に生まれ育った一人として、地域に対しての誇りをもち、大切にしていこうとする心情を育てる。

【石見銀山街道を歩く】

- ・石見銀山の沖泊街道周辺の遺跡を見学し、先人たちの活動がどのような様子であったのか理解を深める。
- ・実際に現地を歩き、世界遺産全体のおおよその規模を把握し、歴史に対する興味・関心を高める。
- ・これらの活動を協力しながらやり遂げる力を培う。

【道徳教育の観点から】

- ・地域社会の一員としての自覚をもって、郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。4—（8）
- ・日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。4—（9）
- ・公德心および社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。4—（2）
- ・互いに協力し合い、高め合い、協力をしながら好ましい友だち関係を築く。2—（3）

○実際の学習のようす

①事前学習

参加生徒 15 名のうち、1 年生 5 名、2 年生 2 名が 4 月に他県から転校してきた生徒（山村留学生）だったので、社会科の授業で DVD などを用い、石見銀山の歴史や文化的景観などについて、その概略を学習した。

②当日の動き

8:40：学校発(バス)～9:10：銀山公園発(徒歩)～9:30：清水寺前休憩所～
～10:00：龍源寺間歩前通過～11:00：降路坂の茶店跡で休憩～11:10 発～
～11:50：「よずくの里」着～昼食・休憩～12:20 発～～13:10：松山の道標着～13:20 発～
～14:00：温泉津沖泊着～14:30：沖泊発(バス)～15:30：学校着～活動の振り返り、感想記入

③事後学習

現地を訪れて調べたこと、分かったこと、感想などを紙面にまとめたり、社会科の歴史学習の中で補っていったりした。



～ 現地を訪れて分かったこと、調べて分かったこと、感想 ～

- ・ 13kmというとても長い道のりを歩いてとても疲れた。昔の人は銀を掘るのも大変だけど、その銀を運ぶのも大変だったんだなと思った。自分はリュックだけでも大変だったので昔の人はすごいなあと改めて感じた。沖泊はとてもきれいで、広くてとてもいい港だなと思った。貿易の場として使われていてすごいなと思った。
- ・ 13kmの山道を歩くのは初めてのことであった。銀山の歴史を勉強する場としてだけではなく、歩く苦しさを紛らわせるために、みんなで歌を歌ったり、しりとりをしたり、普段会話が少ない人と歩きながらたくさんの会話ができてよかったと思う。
- ・ 今年は去年と違うところを歩いて学習した。去年よりきつかったが、みんなと話しながら歩き切れたのでよかった。銀山の周辺には、まだたくさんの人が住んでいるので、すごいなあと考えたが、昔はもっとたくさんの人たちが住んでいたと聞いて驚いた。今日一日で銀山や周辺のことをたくさん学習できたと思った。
- ・ 2回目の銀山学習だった。去年より長い道を久しぶりに歩いたので大変だった。途中沢山の山菜を見つけた。沖泊では勝部さんの話を聞いた。港の条件は、水深が深いこと、風が吹かないこと、波が来ないことなどたくさん条件があった。僕は昔のことなどあまり考えたことがなかったので、話を聞いて昔のことがよくわかった。
- ・ 山を歩いたことはあるけれどあんなに細い山道を歩いたのは初めてだった。昔の人はあんな山道を歩いたなんてすごいなあと考えた。13kmも歩いたことも初めてだったので足が痛くなったが、とても楽しかったし、勉強になった。

○学習の成果と課題

実際に細く険しい山道を軽い荷物ではあるが、自分のリュックを背負い、歩いたことで、それよりはるかに重い銀を担いで歩いた昔の人たちの苦労や偉大さを実感できた。

また、感想にも表れているように、交流を深める場にもなっている。

本校では、3年生が修学旅行中に見学地を変え1, 2年の2年計画で実施している。山村留学制度により、毎年のように転入生がくるため、学習の積み上げが生かされにくい面もある。また、銀山学習と遠足とを兼ねているので、それぞれの目標が達成させられるよう意図的に計画して行く必要がある。



平成25年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1 実施学年・人数 第1学年・11名

2 実施時期 9月～11月

3 学習のねらい

ふるさとが世界に誇れる貴重な文化遺産を有することへの理解を深めるとともに、地域の人々との交流を深めながら、ふるさとの伝統や文化を守り、伝えることができる生徒を育成する。

4 学習内容

- ・事前学習
- ・大森探検～石銀地区・本間歩・釜屋間歩・大久保間歩見学～
- ・世界遺産センターでの学習
- ・神社巡り（取材）
- ・まとめ学習
- ・新聞制作
- ・三中文化祭での発表

5 実際の学習の様子



事前学習



大久保間歩見学



世界遺産センター見学



神社巡り（取材）



まとめ学習



文化祭発表



生徒が作成した新聞

大森探検を終えて～生徒の感想～

☆大切さだなと思ったことは、昔のものを大事にするということです。昔のものがあると、その時代のことがわかるからです。大久保間歩に馬に乗ってやりを持っていたは入れなかったという話を聞いて、なるほどなと思いました。過去の銀の採掘方法では、馬が間歩に入ることはできなかったからです。

☆大森探検を通して、私はどんなことができるのだろうと思いました。それは、豊栄神社では、観光客が来ない、小動物で困っていることが分かりました。石清水八幡宮では、人がいなくて、せっかくある田植えがやしができなくなっているそうです。その話を聞いて、とっても残念だなと思ったし、どうやって解決していくのだろうと思いました。班のメンバーと話し合い、人を呼込む方法を考えました。すると、これらの神社が今後どうなるのが楽しみになったし、自分にできることがあったらやってみようと思いました。

☆訪問したどの神社も見ただけで、歴史を感じることができました。また、保存維持することは、大変なんだなと思いました。この問題をどうすればよいのか、今の私にはわからないけど、この学習を通して、解決方法を見つけたいと思いました。

6 学習の成果と課題

- ・間歩の見学や世界遺産センターでの学習、大森・水上・祖式・大代地区の各地区の神社の訪問や地域の文化的行事を通じて、石見銀山の文化的価値をより深く理解し、次の世代へと継承するための意識を高めることができた。
- ・地域の人々との交流を通して、インタビューや調べ学習を行い、それをグループ学習によってまとめ、地域の文化財や文化的行事の大切さを学ぶことができた。また、それらを「誰が」、「どのような方法で守っている」のかを肌で感じ、自分たちが「今」、「何ができるのか」ということを考える良い機会となった。

石見銀山学習実施成果報告書

1. 実施学年・人数 全校生徒 61名

2. 実施時期 平成25年 6、7月（実地体験と海岸清掃）
10月（文化祭での発表）

3. 学習のねらい

- 「石見銀山の歴史や温泉津町とのつながりを知ろう」活動を通じて、ふるさとの歴史や文化を学ぶとともに、銀山や自分達の住んでいる地域をより身近なものとしてとらえ、銀山についてより深く知ろうという意欲や、銀山遺跡や地域を大切にしようとする心情を育む。
- 沖泊港の清掃活動を通して、生徒の銀山遺跡を守る活動に関わっているという意識と、将来にわたって石見銀山や地域を大切にしていこうという意欲を高める。

4. 学習内容・学習の実際

① 銀山について学習と学習課題の設定 「石見銀山の歴史や温泉津町とのつながりを知ろう」

【日時】・平成25年 6月11日（5、6時間目）

【内容】・過去、2年間の温泉津中学校銀山学習を振り返る。

- ・石見銀山の歴史や現状、温泉津町とのつながりについて知る。
- ・実地体験「銀山街道（温泉津沖泊道）を踏破しよう」の概要、街道周辺の遺跡等について知る。
- ・学習課題を知り、課題について話し合う。



<生徒感想>

話は少し難しかったけど、改めて石見銀山のことを知ることができました。昔のものをそのままきれいに保存しておくことは、考えている以上に難しいと知って、ふるさとをこれからも大切にしていきたいなと思いました。6月13日がとても楽しになりました。

② 実地体験「銀山街道（温泉津沖泊道）を踏破しよう」

【日時】・平成25年 6月13日（1～6時間目）

【場所】・銀山街道（温泉津沖泊道）

【内容】・龍源寺間歩→坂根口番所跡→大谷六地藏→火伏観音→清水の金柄杓→沖泊のコースを踏破

- ・調べたことをまとめ、班ごとに発表する。（6月14日）



<生徒感想>

ガイドさんの話で温泉津は石見銀山を支える大切な場所だったということを知り、温泉津って石見銀山にかかせない存在だと思いました。これからも大切にしていきたいと思いました。

＜生徒の感想＞

僕は初めて銀山街道を歩きました。今は車が交通手段だけど、昔の人は今よりもっと大変だったことを実感しました。今も、当時を感じさせられる風景も残っており、これからもこれを大切にしていきたいと思いました。「温泉津が支えている」という言葉が印象に残りました。

③ 環境学習「櫛島清掃」

【内容】・石見銀山と関わりの深い「櫛島」を清掃する。

【日時】・平成25年7月4日

【場所】・温泉津町「櫛島」



＜生徒の感想＞

僕たちは毎年ゴミが多い場所を清掃しました。いっぱいゴミ、大きな流木があったりしてとても大変だったけど、班のみんなや違う班の人達と協力して清掃できました。また、地域の方は、自分たちができない所を清掃しておられました。僕たち温中が地域から愛されていることをあらためて知ることができた櫛島清掃でした。

④ 学習したことを発表する

【内容】・6月に調査したこと、櫛島の清掃活動、ふるさと学習を通して感じたこと等を、委員会でまとめ、文化祭で発表する。

【日時】・平成25年10月27日

【場所】・温泉津中学校



5. 学習の成果と課題

- 自分たちが住んでいる温泉津町と石見銀山との関係について調べることで、銀山や自分たちの住んでいる地域をより身近なものとしてとらえ、銀山についてより深く知ろうとする意欲や、銀山遺跡や地域を大切にしようとする心情を育むことができた。
- 銀山と関わりの深い櫛島の清掃活動をとおして、生徒の銀山遺跡を守る活動に関わっているという意識と将来にわたって石見銀山や地域を大切にしていこうという意欲が高まった。また、地域の方の清掃日を同じ日に設定していただいたことにより「地域の大人の思い」を感じた生徒も多かった。
- 文化祭等での発表を通して、自分たちの住んでいる地域やそこに残る銀山遺跡を守ろうという意識が高まるとともに、豊かな表現力を高めることができた。

平成25年度石見銀山学習実施成果報告書

1. 実施学年、人数 1年生、34名
2. 実施時期 5月～11月
3. 学習のねらい
 - ・石見銀山についての調べ学習や体験学習を通して、石見銀山についての知識・理解を深めるとともに、情報収集能力や表現能力を養う。
 - ・石見銀山についての学習を通して、ふるさとを愛し、ふるさとを大切にしようとする態度を育てる。
4. 学習内容
 - (1) 石見銀山調べ学習
 - ・学習期間：5月～7月
 - ・調査&まとめ（インターネット検索、図書室での書籍調査、聞き取り調査、現地調査(仁摩町内)）
 - ・レポート作り（文化祭で展示）
 - (2) フィールドワーク①
 - ・期 日：7月3日（水）
 - ・銀山遺跡見学（大久保間歩、釜屋間歩）
 - (3) フィールドワーク②〔1年宿泊研修の1日目に実施〕
 - ・期 日：9月20日（金）
 - ・大森地区史跡めぐり（班別行動）
 - (4) 石見銀山講演会（銀山学習のまとめとして）
 - ・期 日：11月5日（火）
 - ・講 師：石見銀山資料館 館長 仲野 義文 さん

5. 実際の学習の様子

(1) 石見銀山調べ学習

総合的な学習の一環として、各自でテーマを設定してインターネットや関連書籍を調べて資料を集め、レポートを作成した。調べる方法も各自で決めたので、同じテーマで調べた生徒でも内容は異なり、生徒各自の個性があらわれた内容豊かなレポートになった。

この学習を通して、情報収集能力や表現力の向上を図ることができ、総合的な学習での目的も果たすことができた。レポートは文化祭で展示した。



(2) フィールドワーク①〔銀山遺跡見学〕

石見銀山ガイドの会の方にガイドをお願いし、大久保間歩の入坑・釜屋間歩の見学を行った。一般公開されている間歩を見学することで、現存する遺跡を通して石見銀山の偉大さを実感することができた。また、ガイドの方からは、当時の銀の採掘方法や石銀地区の賑わいの様子などを聞くことができ、石見銀山の繁栄の様子を想像することができた。

生徒にとっては、実際の遺跡を見ることで、調べ学習で得た知識を確かめるとともに、ふるさとにある文化遺産への理解を深めることができた。



(3) フィールドワーク②〔大森地区史跡めぐり〕

大森地区史跡めぐりでは、羅漢寺や旧河島家、熊谷家住宅など現存する史跡を見学して回るとともに、世界遺産登録の決め手の1つとなった大森地区の町並みの様子を肌で感じる事ができた。

宿泊研修の班別行動として実施し、班ごとに史跡や施設をいろいろ選んで見学して回った。石見銀山に関わる旧家をいくつか訪ねて回った班や映画のロケ地を巡った班、町並み交流センターで大森地区の歴史などの説明を受けた班などもあった。



6. 学習の成果と課題

- ・ 調べ学習やフィールドワークを通して、ふるさとの史跡について詳しく調べたり実物を見たりすることの重要性に気づき、石見銀山の歴史や価値について理解し、その偉大さを再確認することができた。
- ・ 調べ学習やレポート作りを通して、情報収集能力や表現能力を養うことができた。また、石見銀山についての幅広い情報を得ることができた。
- ・ 大森地区史跡めぐりでは、地域の方々や施設の方々と触れ合うことができ、コミュニケーション能力の向上の一助にすることができた。
- ・ さまざまな人々との触れ合いを通して、その人たちがふるさとを愛し、ふるさとを大切に守ってこられた姿を見ることができた。今後、生徒たちがどのような気持ちでどのようにしてふるさとを守り、育てていくかを考えるきっかけにすることができたと思う。

平成 25 年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概

大田市立
長久小学校

○実施学年、人数 第 6 学年 人数 40 人

○実施時期 平成 25 年 10 月 30 日

○学習のねらい

- ・石見銀山について学習することを通して、ふるさとへの愛着と誇りをもつ。
- ・見学調査活動を通して、石見銀山遺跡の歴史的価値を調べ、自分なりの表現でまとめる。

○学習内容

学習テーマ 知ろう！ 探ろう！ 石見銀山

- ① 3 人の武将（信長・秀吉・家康）と石見銀山との関わりを学ぶ。
- ② 視聴覚教材や図書、パンフレット、インターネットを通して石見銀山の概要を知る。
- ③ 大久保間歩・釜屋間歩を見学する。
- ④ 世界遺産センターで館内見学と選鉱体験をする。
- ⑤ 現地学習の報告書を作り、事前に作ってきた資料と共にパンフレットとしてまとめる。

○実際の学習の様子

【事前学習】

- ① 3 人の武将と石見銀山との関わりを学ぶ。
 - ② 視聴覚教材や図書、パンフレット、インターネットを通して石見銀山の概要を知る。
- ・社会科の時間に 3 人の武将と銀山の関わりを学んだ後、NHK で放送された「そのとき歴史は動いた～銀を制するものは天下を制する～」を視聴した。その後、インターネットの石見銀山ミュージアムのページや世界遺産センターから出ているパンフレットを活用して石見銀山の概要を小項目に分けて知り、まとめていった。

【現地学習】



③ 大久保間歩・釜屋間歩を見学する

- ・銀を採掘するために、いろいろな体勢で仕事をしていたこと、間歩で働く人の平均寿命が 30 歳くらいであったこと、地下何階もあったことなどを学んだ。暗く、足下も頭の上も心許ない感触を抱きながら、採掘に携わった人々の労苦を児童なりに感じ取ることができた。また、釜屋間歩の岩盤遺跡は当時の人々の生活が分かるものであり、遺産センターでの模型とつなぎ合わせて理解することができた。

④ 世界遺産センターで館内見学と選鉱体験をする。



・館内見学では、自分たちが今まで学習してきたことを頭に置きながら説明を聞き、見学することができた。展示物で銀山全体の広さや、歴史的価値を再度確認することができた。

選鉱体験では、水と銀の混ざった土が入ったたらいの中に選鉱用の容器を入れて、用心深く銀を選ぶ姿、おおざっぱに流す姿などさまざまであったが、小さな銀を発見しては歓声をあげていた。土の中から銀を取り出す作業の大変さを実感することができた。

【事後学習】

⑤ 現地学習の報告書を作り、事前に作ってきた資料と共にパンフレットとしてまとめる。



- ・現地学習後、世界遺産センターから出されている DVD を視聴し、自分がこれまで学習してきたこと、現地見学で学んだことを再度整理して報告書作りに取りかかった。
- ・間歩の中や遺産センターの模型等、何枚か写真を用意しておき、写真を切り貼りしながら現地見学の報告書を作った。見学で分かったことだけでなく、事前学習の内容をきちんと盛り込んで報告書を作ることができた。

(児童が作った報告書)

- ・事後学習で作った報告書と事前学習で作っていた銀山の概要を個々がまとめたプリントを一冊のパンフレットにし、銀山学習を終えた。

○ 学習の成果と課題

○ 成果

- ① 石見銀山のすばらしさを知り、大田市への愛着と誇りを持つことができた。
- ② 調査活動や体験活動を通して、歴史学習に興味を持ち、学力の向上を図ることができた。

○ 課題

- ・児童が興味、関心を持って学習に取り組み、石見銀山の歴史的価値に思いをはせ、ふろさと大田をさらに大切にしようとするような学習過程を考えていきたい。

平成25年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 第5・6学年 15名
2. 実施時期 平成25年11月20日
3. 学習のねらい 大森の町並みの見学を通し、石見銀山の価値を知り、郷土に対する愛着を深めるとともに、遺産保護への住民の方々の思いを知る。
4. 学習内容

過程	主な学習活動
事前	○石見銀山を知ろう ・パンフレットやDVDから石見銀山の歴史や石見銀山の価値について知る。
現地学習	【現地学習】11月20日 「大森の町並みを見学しよう」 ・大森の町並み（城上神社→石見銀山資料館→河島家→五百羅漢）の見学を通して、理解を深める。 「五十猛にある遺跡を知ろう（五十猛の鉛山）」 ・校区内にある鉛山の見学と解説を聞くことにより、校区にある石見銀山関連遺跡について知る。
事後	・調べたり見学したりして分かったことをスライドショーにまとめる。 ・調べたり見学したりしてわかったことを発表朝礼で発表する。

○実際の学習の様子

【大森の町並みの見学】

石見銀山ガイドの会の方に案内していただき、大森の町並みを見学して歩いた。





【五十猛の鉛山の見学】

校区内にある「鉛山」について場所と概要の説明を受けた。校区に石見銀山と関連のある遺跡があることを知ることができた。



【スライドショーによる発表】

見学で分かったこと、感じたことをパソコンを使ってスライドショーにまとめ、全校児童に向けて発表した。



○学習の成果と課題

- ・ 石見銀山の歴史、価値についての理解を深められた。
- ・ 世界的に価値のある石見銀山遺跡を知ることを通し、郷土への誇りと愛着が生まれてきつつある。
- ・ 校区内にも石見銀山に関係のある遺跡があることが分かり、故郷への理解と愛着を深めることができた。

平成25年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年、人数

第6学年 13名（指導者 2名）

2. 実施時期

平成25年 10月～11月

3. 学習のねらい

- ・石見銀山について学習することを通して、ふるさと大田への愛着と誇りをもつ。
- ・自分の課題について、調べたり、体験したりしたことをまとめ、発表する。

4. 学習内容

過程	主な学習活動
事前	・パンフレットやDVDなどの資料から、石見銀山遺跡について調べる。 ・現地学習での課題を見つける。
現地学習	・石見銀山世界遺産センターで説明を聞いたり、見学したりして、課題を解決する。 ・「選鉱，砂銀採り」の体験活動，灰吹法実演見学，大久保間歩見学（間歩体験）を通して理解を深める。
事後	・調べたり見学したりしてわかったことをまとめる。 ・まとめたことを発表する。

5. 実際の学習の様子



事前学習（講師：仲野先生）



世界遺産センター見学



比重選鉱（ゆり盆体験）



大久保間歩・釜屋間部見学

6. 学習の成果と課題

- ・石見銀山についての興味関心を高めるとともに、石見銀山の歴史や価値について理解を深めることができた。
- ・体験活動や遺跡見学を通して、さらに理解を深めることができた。
- ・世界遺産の一つである石見銀山遺跡がある郷土，大田市への誇りと愛着の心情を培うことができた。
- ・石見銀山学習を通して，総合的な学習の時間における探究的な学習（「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」）を展開していくことができた。

平成25年度 石見銀山基金 石見銀山現地学習実施成果報告書

1. 実施学年・人数 第6学年 45人

2. 実施時期 9月～1月

3. 学習のねらい

- 遺跡(間歩など)や資料館の見学を通して、石見銀山の価値を知り、郷土に対する愛着を深めることができる。
- 銀生産が盛んだったころの石見銀山の生活の様子を知り、昔の暮らしについて考えることができる。

4. 学習内容

郷土の貴重な文化、歴史遺産について学習し、十分な知識、理解を図るとともに、その背景となった歴史や地域、文化、技術についても学習する。そうして、この地に生まれ育った一人として、この遺産に対し誇りをもち、大切にしていこうという心情を育てる。

そのために、社会科の歴史学習と関連させながら、石見銀山学習を進めていく。戦国時代の学習の中でDVDを活用し、石見銀山についての概要説明と興味付けを行い、そして、調べ学習を行う。

2学期に入り、各自石見銀山についての課題を設定し、図書資料、パソコンなどを利用し課題追求を行う。さらに、現地見学を通し、課題意識をもって見学することでその価値に気付き、誇りと愛着の気持ちを育てる。そして、その成果をまとめ発表することで、知識と理解を確かなものにしていく。

5. 実際の学習の様子

現地学習 11月27日(水)

○主な活動

- ・世界遺産センター見学、龍源寺間歩見学、大森の町並み見学

【世界遺産センター】

- ・石見銀山について学習するまでは、山が全て銀だと思っていました。でも、学習してみると、そんな単純なものじゃなくて、銀を採り出すにも色々な手順があることを知りました。ぼく達の身近な所に、世界にも誇れるものがあるなんて本当にすごいと思いました。



- ・間歩の中をそのままそっくりに作ってある模型にびっくりしました。本当の間歩の中にいる気分だったし、ノミで掘ったあとやダイナマイトを間歩の壁に埋め込んで爆発させたあとも残っていてとてもびっくりしました。
- ・「争奪戦」のコーナーで、ぼくが学習発表会で演じた小笠原氏のパネルがなくて少し残念でした。自由行動の時に、豆知識クイズのコーナーで「銀1gがどれくらい伸びるか」や「仁丹に銀が使われていること」「銀じゃないのに銀閣寺とよばれる理由」などがよく分かりました。



【龍源寺間歩】

- ・本物の間歩の中に入り、「昔の人はこんな暗い中、らとうだけで作業していてすごい苦労があったんだ」と思いました。間歩は、横だけでなく縦にも掘られ、中にはすごく高いところまで掘られている所もあってびっくりしました。当時の人の苦労を知ることができました。



【大森の町並み】

- ・大森の町の中は木でできたものが多かったです。ポストも木でできていました。地域の方が、町のごみを拾っておられたり、「芋娘」という方々が色々な所に花をいけたりしておられることも知ることができました。今日の見学で、学校の図書館だけではわからないことをたくさん知ることができました。
- ・町の中を歩きながら、間歩の数や当時住んでいた人の達のことなど普段聞くことのできない貴重な話をたくさん聞くことができました。町の中には、当時の建物やお寺などがそのまま残っていてとても興味深かったです。



6. 学習の成果と課題

- 一人ひとりが事前学習で課題を持ち、調べ学習をしていたので、ガイドさんの説明にも問題意識を持って聞くことができた。
- 見学やガイドの方の説明を通して、大田市には世界に誇れる遺産があるということを改めて認識することができた。また、その歴史を知ること、遺産としての価値を知り、守っていかなければならないという気持ちを持つことができた。
- 今後の保全・保護活動については、学習が不十分であるので、具体的にどのような取り組みが行われているか、学ぶ機会を設けるようにしたい。

平成25年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

○実施学年・人数

第6学年 16名（指導者1名）

○実施時期

平成25年 10月～11月

○学習のねらい

- ・石見銀山について学習することを通し、ふるさとへの愛着と誇りをもつ。
- ・自らの課題について、体験活動を通して学んだことをまとめ、伝え合う。

○学習内容

過 程	主な学習活動
事前学習	○石見銀山について知ろう ・図書やインターネット、パンフレット、DVD等から石見銀山遺跡の歴史や価値について知る。 第1時 ○世界遺産の石見銀山 第2時 ○世界に影響を与えた石見銀山 第3時 ○石見銀山の歴史とくらし 第4時 ○間歩について考えよう 第5時 ○大森の町並みを見てみよう 第6時 ○現地学習に向けて課題を持とう
現地学習	○世界遺産センターで調べよう ・ガイドの方の話を聞く。 ・センター内を見学し調べる。 ・調べても分からなかったことを質問する。 ・灰吹き法を見学する。 ○大久保間歩・釜屋間歩を見学しよう ・ガイドの方に説明していただきながら間歩を見学する。 ・ガイドの方に質問する。 ○大森の町並みを散策しよう ・五百羅漢、井戸神社、勝源寺、代官所跡、城上神社を見学する。 ・散策しながら歴史的・文化的景観にふれる。
事後学習	○石見銀山について分かったことをまとめよう。 ・調べたことを自分なりの方法で模造紙や画用紙にまとめる。 ○まとめたことを発表しよう。 ・お互いの発表を聞き合おう。

○実際の学習の様子

～世界遺産センター展示見学～



～世界遺産センター灰吹き法見学～



～大久保間歩・釜屋間歩見学～



～町並み散策～



～まとめ～



○学習の成果と課題

〔成果〕

- ・現地学習を取り入れ石見銀山を肌で感じたことで、石見銀山に対する興味・関心が高まった。
- ・石見銀山の歴史的価値を学んだことで、戦国時代から江戸時代にかけての歴史をより身近なものとして学ぶことができた。
- ・ふるさとの誇りのひとつとして、石見銀山を認識できるようになった。

〔課題〕

- ・世界遺産センターの展示を児童が自由に見て回る時間がなかったこと等から、時間設定の見直しやガイドの方との綿密な事前打ち合わせの必要性を感じた。

大田市4班連合小学校

(池田・北三瓶・志学)

平成25年度大田市石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1 実施学年・人数 4班連合5・6年生・35名

2 実施時期 平成25年7月2日(現地学習)

3 学習のねらい

- ①石見銀山遺跡を直接見聞することにより、銀山の価値や歴史について知る。
- ②銀山遺跡を守る活動をしている諸団体の活動を知る。
- ③3校児童がともに活動や学習をすることを通して、集団活動や協力の大切さを学び、親睦を深める。

4 学習内容

- ・大久保間歩、釜屋間歩、石銀集落跡見学
- ・世界遺産センターにおける見学
- ・中国地方にある世界遺産の学習

5 実際の学習の様子

①【6年】4班連合修学旅行(合同)

～世界遺産の原爆ドーム・厳島神社を訪ねよう～

- ・修学旅行で訪ねた世界遺産(原爆ドーム・厳島神社)の価値についてまとめ、修学旅行報告会で発表した。



②【5年】修学旅行報告会(各校)

- ・6年の発表により、広島にある2つの世界遺産について知るとともに、ふるさと大田市にある世界遺産・石見銀山についての関心を高めた。

③【5・6年共通】石見銀山のすばらしさについて学習しよう(各校・合同)

- ・パンフレットやDVDから石見銀山の歴史や石見銀山遺跡の価値について知り、各校や各自の課題を見つけた。

●大久保間歩釜屋間歩石銀集落跡を見学しよう

- ・本谷から大久保間歩～釜屋間歩～石銀集落跡～展望台～世界遺産センターを歩き、往時の暮らしや作業について想像した。
- ・実際の間歩を見学し、そのスケールの大きさを実感するとともに、石見銀山ガイドの会のガイドの説明により当時の発掘の工夫や苦労を知った。



●石見銀山世界遺産センターで調べよう

- ・各校や各自の課題について、センターの見学を通して調べ、課題解決を図った。センター職員に質問をして調べたり、資料を写したりした。

●本物の丁銀をさわろう・当時のくらしの劇を見よう

- ・丁度、登録の記念日で、職員による当時の暮らしの劇が上演されり、本物の丁銀を触ることができたりした。何百年の時代をこえた丁銀の重さを実感していた。

●銀山を守る活動を知ろう

- ・銀山課の青木さんに銀山を守る活動について概説してもらった。そのことで、自分たちの住んでいる三瓶を守る活動を比べて聞くことができた。

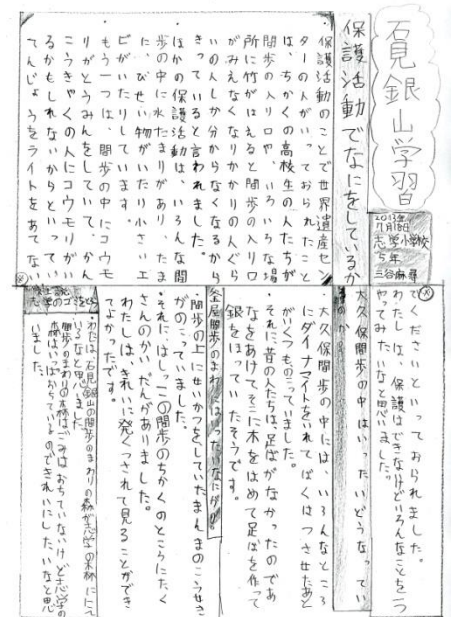
●世界遺産「石見銀山」のすばらしさをまとめよう

- ・これまでの学習を新聞に自分なりの方法でまとめた。



6 学習の成果と課題

- ①現地見学やフィールドワークにより、石見銀山の往時の暮らしについて体感することができた。
- ②銀山学習を各校の社会科や総合的な学習の時間につなげることができた。
- ③まとめることを新聞形式にすることで事後学習の紙上の交流が図られる。今後、事後学習の一層の充実を図りたい。
- ④三瓶周辺3校の児童の親睦と連帯感を深めることができた。
- ⑤家庭で自主的に石見銀山を訪問したり、銀山関連のイベントへ参加したりして、ふるさと大田への愛着を深めることができた。
- ⑥6年生は昨年度温泉津地域の見学をしているので、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」について広く学習できた。5年生は来年度温泉津へ行くようにし、複式校の良さが実感できるような取組としたい。



平成25年度石見銀山事業 石見銀山学習の概要

○ 実施学年、人数 第6学年 15名

○ 実施時期 平成25年9月～10月

○ 学習のねらい

- ・遺跡や資料館の見学を通して、石見銀山の価値を知り、ふるさとへの愛着と誇りを持つ。
- ・自らの課題について体験を通して学んだことを生かし、まとめ、発信する。

○ 学習内容

6年生「知ろう！探ろう！石見銀山」(10時間)

【事前学習】

- ・パンフレットやDVDをもとに石見銀山の歴史や石見銀山遺跡の価値について知る。
- ・現地学習で調べる課題をみつける。

【現地学習】

「石見銀山世界遺産センターで調べよう」

- ・石見銀山についての疑問について質問したり、見学したりすることで課題を解決する。
- ・当時の世界経済をも動かしていたのが石見銀山の銀であることをつかむ。

「大久保間歩見学」

- ・江戸時代と明治期の採掘方法のちがいや、採掘方法の進化、佐渡金山とのちがいなどを学習する。

○ 実際の学習の様子

学習終了後の児童のまとめの作文より(抜粋)

●最初は、世界遺産センターで、青木さんから「銀山はどのように栄えたか」や「どのように銀がとれて、どのように港に運ばれたか」を教えて頂きました。銀山を守るために石見城が作られました。鞆ヶ浦道と温泉津沖泊道を使って港まで運んでいることも初めて知りました。今でも歩くことができるということも知りました。

●最初の世界遺産センターでは、模型などで銀を採っている様子や、銀を取り出すところなどを見ました。銀を取り出すのに、くだいて、分けてなど、たくさんの工程があり、大変なんだなと思いました。また、銀山を守るために城が築かれていたり、銀を運んだ道なども世界遺産の中に入っているんだということも初めて知りました。

次に、大久保間歩へ行きました。大森の町へ行ったことがあるのですが、間歩は初めてでした。まず、入っておどろいたのは予想以上に暗かったところです。資料では見たことがあるものの、こんなに暗いところで作業をしているんだなと思いました。それに足場がものすごく高いところにあったり、ものす

ごく細いすき間や横穴があったりしました。そういうところで銀を掘るのは大変な作業だったんだろうなと思いました。実際に行くと、いろいろなことがわかりました。

次に、大森の町を歩きました。木造建築の建物が多くて、大田の町とはふんいきがちがいました。自動販売機や室外機も木でおおっており、町のふんいきになじんでいました。細かいところまで気を配っているんだなと思いました。町には、代官所や裁判所もありました。そのころの様子をガイドさんに説明してもらい、よく分かりました。

最後に、城上神社へ行きました。鳴き龍の説明を聞いてやってみました。聞こえてよかったです。

銀山学習をしてみると、身近なところにあったけど、あまりよく分かっていなかったんだなと思いました。今回、石見銀山を見学してたくさんのことが分かったし、興味も持てました。前までは、石見銀山はどんなところが世界遺産になっていたかなどを知りませんでした。でも、今は分かるようになって、とてもほこれるものなんだなと思います。石見銀山のことを勉強できて良かったです。

●ガイドさんに「世界遺産が近すぎて何も感じないかもしれないけど、他の人から見たらすごいんだからもっとほこりを持って友達にもたくさん自慢していいよ」と言われたので自信を持って話したいです。

●一番心に残った所は、大久保間歩です。とっても寒くて、暗くて、びっくりしました。螺灯の実験をするために、松島さんが「電池を消して」と言われたので、言われた通りみんなで電池を消したら、すっごく真っ暗で、螺等の光がすっごく小さかったので、これで仕事をやっていたと思うと、すごく大変だったことが分かりました。

●ガイドさんに、「もっと自分の住んでいる町にほこりを持ちなさい」と言われました。城上神社に来られた方は、長野から来られたと言われていたのでとてもびっくりしました。そんなに有名だとは知りませんでした。川合の近くの三瓶山も、石見銀山も、島根のほこり、川合のほこりだと思いました。

○ 学習の成果と課題（◎成果 △課題）

◎路頭掘りから始まる採掘方法の変化、灰吹法による精錬、銀の輸送方法やルート、銀の世界での流通などの知識の習得ができた。

◎間歩見学等を通した現地学習による体験的理解の促進、興味関心が高まった。

◎ふるさとのすばらしさの再認識、石見銀山の歴史的、文化的価値の認識と郷土への誇りと愛着が醸成された。

△世界遺産をより明確にする上では、銀山街道(城址、温泉津港など)の見学も必要であると思われるが、時間的にも費用の面からも実施が難しく残念である。



大田市立久屋小学校

平成25年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

○実施学年・人数

第6学年 12名

○実施時期

10月 ～ 12月

○学習のねらい

- ・ 石見銀山の歴史や現在残されている遺跡に興味を持ち、意欲的に調べることができる。
- ・ 遺跡（間歩など）や資料館の見学等を通し、銀生産が盛んだった頃の石見銀山の生活の様子や石見銀山の価値を知り、郷土に対する愛着を深めることができる。
- ・ 自分の課題に必要な資料や情報をさがし、分かりやすくまとめることができる。

○学習内容

【事前学習】

- ・ DVD「石見銀山遺跡と文化的景観」を視聴し、銀山について知りたいことを書き出す。
- ・ 知りたいことについて図書室の資料等で調べる。

【現地学習】

- ・ 大久保間歩を見学し、採掘の様子、仙ノ山での銀生産や生活の様子について学ぶ。
- ・ 銀山公園から大森の町並みを歩きながら、採掘されていた当時の様子について学ぶ。
- ・ 世界遺産センターの展示を見たり、質問をしたりして疑問を解決する。
- ・ 質疑応答の時間を設け学んだことを整理する。

【事後学習】

- ・ 資料および見学や体験学習で学んだことを生かして、自分のテーマに沿った調べ学習を深め、新聞にまとめる。
- ・ 発表会を開き、お互いの学びを交流し合う。

○実際の学習の様子

【現地学習】

○間歩の見学

銀山ガイドの和上さんの説明を聞いたり質問をしたりしながら、大久保間歩や町並みを見学した。

○世界遺産センターでの調べ学習

個々の学習テーマををさらに深く調べるために世界遺産センターの展示を見学し、分かったことを記録した。





【現地学習の感想】

「間歩では、私たちと同じくらいの年齢から『柄山負い』という仕事をして30kgぐらいの石を運んでいたということを聞いておどろきました。」

「暗い中で金づちやのみを使って掘っていて、苦勞したんだなぁと思いました。間歩の中には江戸時代や明治時代のものがいまだに残っていて、すごいと思いました。」

【事後学習】新聞づくりと発表会

現地学習と調べ学習で分かった内容を新聞にまとめ、説明をし合った後、お互いに感想や意見を交換した。



○学習の成果と課題

- ・ 身近な遺跡だと思っていた石見銀山の歴史的・世界的な価値の高さを、知識としてだけでなく体験的に学習することができ、ふるさとへの誇りや愛着を高めることができた。
- ・ 本校校区は大森町に隣接する地域であるが、児童は学習を通して初めて知ったことも多く、遺跡の価値を理解するよい学習の機会となった。
- ・ 児童それぞれが考えたテーマに沿って調べ、現地で体験し、分かったことを図や写真を使ってまとめて発表したことで、実践的な情報活用能力を身に着けることができた。

平成25年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 5・6年生中心に学習しながら、3年生～6年生14名が参加

2. 実施時期 4月～12月

3. 学習のねらい

- 昨年度から始めた子どもガイド活動のガイドエリアやガイド対象者を新しいものに工夫することで、意欲的・主体的に課題を解決していく態度を育てることができる。
- 大森と他地域とのつながりを学習したり、石見銀山の魅力を再認識する活動を取り入れたりすることで、郷土への誇りと愛着を育むことができる。
- 発見・収集した情報を処理しまとめる活動をしたり、わかりやすく伝える活動をしたりをすることを通して、思考力・判断力・表現力を養うことができる。

4. 学習内容

(1) 「銀山子どもガイドプロジェクトⅡ」

今年度のガイド活動は、エリアを拡大して重要遺跡が集中している銀山地区を選んで挑戦した。そして、アメリカから学校訪問客があるという機会を生かし、ガイド対象を外国の方として、準備を進めていくことにした。ガイドエリアや対象に対応しながら、ふるさとの再発見や様々な人との関わり方を学んだ学習である。

(2) 「石見銀山はつながるよ どこまでも」

石見銀山が栄えていた頃、銀山と他地域とはにぎやかな交流があった。時代は流れ銀山閉山後の大正以降、大森と他地域とのつながりは希薄になってきたが、世界遺産登録とともに観光客がたくさん訪れるようになり、人と人との交流が見られるようになった。再び、まわりの町や他県、遠くは外国の町とのつながりができた。大森とまわりの町をはじめとする他地域とのつながりの今昔を学び、石見銀山の魅力を再認識するとともに、その魅力を広く発信しながら、ふるさとへの誇りと愛着を育んだ学習である。

(3) 地域の方へ情報発信をしよう

地域の交流センターにおいて開催された学習発表会で、子どもガイド活動の様子や石見銀山と他地域とのつながり及び石見銀山の魅力について、地域住民に情報発信した活動である。

5. 実際の学習の様子

(1) 「銀山子どもガイドプロジェクトⅡ」

① 「ガイドのプロから学ぼう」

銀山地区は、子どもたちの生活経験が薄いところなので、まず地元ガイドの会の方に案内していただき、それから子どもガイドらしさを加えていった。

② 「銀山地区オリジナルガイドコースを作ろう」

ガイド対象者のことを考え、わかりやすいクイズ形式にしたり、日本らしさを意識したガイドに工夫したりしながら、コース設定することができた。



③「アメリカの先生たちをガイドしよう」

12名のアメリカの先生方を3グループで、1時間にわたり案内することができ、子どもたちは大満足であった。

外国の先生方がとても興味を持って聞いてくださってうれしかったです。クイズを楽しみながら石見銀山のことを知ってもらって、がんばって作ったかいがありました。(6年児童感想)



(2)「石見銀山はつながるよ どこまでも」

①小单元「まわりとのつながり 今と昔」

子どもたちは郷土資料館の館長さんの話から、石見銀山が栄えていた頃に、生活や銀生産に必要なたくさんの物資が運び込まれ、銀と交換しながら人口20万人の人々が支えられていたことを学んだ。その後、子どもたちは町外に出て、羅漢寺石像と関係あった福光石採石場や銀採掘工具と関係のあったタタラ跡を見学し、見識を広めた。



②小单元「大森の自まんを見つけよう」

子どもたちは、大森の町と他地域とを結びつける観光客の方に「どこから?」「何を目的に?」などインタビューし、年間50万人が訪れる自分達の町の秘密について追求した。インタビュー結果から日本全国から大森の町にきておられることと、そして、自分達の町にはすばらしいお宝がたくさんあることに改めて気づき、そうした大森のよさをもっと広く発信していこうという気持ちの高まりが生まれた。



③小单元「石見銀山をしょうかいしよう」

観光客からヒントを得た石見銀山のすばらしさに、子ども達が考えたすばらしさを加え、新聞やHPで情報発信した。子どもたちはたくさんの人たちに、自分達の町にきてほしいという願いのもとに意欲的に活動した。



(3)「地域の方へ情報発信をしよう」

11月30日、地域の交流センターを会場にし、ガイド活動の様子や石見銀山と他地域とのつながり及び石見銀山の魅力について、地域住民に情報発信することができた。

たくさんの人の前で緊張しました。劇にして私たちの学習の様子を伝えたくて、練習の成果が出てうれしかったです。(5年女子児童)



6. 学習の成果と課題

- 子どもの視点に立ってガイド活動を行ったり、石見銀山を「昔と今で」「他地域との関わりで」学習したりしたことで、子どもたちは改めて石見銀山の価値について学び、郷土のすばらしさを再認識し、郷土を愛する気持ちを強くすることができた。
- 子どもたちの活動を地域で見守り支援していただくような雰囲気がたくさん見られるなか、子どもたちには、未来へと守り伝えていかねばならない使命感や意識を高め、主体的・意欲的に実践活動に取り組んでいけるよう支援していきたいと考えている。

平成25年度石見銀山基金事業 世界遺産学習の概要

1. 実施学年・人数 第6学年 22名（指導者1名）

2. 実施時期 平成25年7月～平成26年1月

3. 学習のねらい

- ・温泉津町と大森町での現地学習を通して、温泉津町との関わりを学ぶ。
- ・世界遺産学習を通して、色々な立場の人が折り合いながら世界遺産を守っていることを知る。
- ・温泉津町民への取材活動を通して、町の現状を知り、今後の温泉津町についてのあり方を考え、ふるさとに対する愛着を育てる。

4. 学習内容

	主 な 学 習 活 動
事前学習	○石見銀山と温泉津の関わりについて知る ・パンフレットから石見銀山について理解する。 ・温泉津の古地図を見て当時の隆盛を学ぶ。 ・福光や温泉津の石工が石見銀山で活躍していたことを知る。 ○世界遺産の意義や理念を知る（筑波大学 大学院生との授業実施） ・世界中にある世界遺産の種類や数を調べる。 ・危機遺産があることを知り、その理由や地域の特徴を知る。 ・石見銀山も保全が必要な世界遺産であることを知り、様々な立場の人が折り合いをつけながら遺産を守っていかうとしていることを知る。 ○現地学習へ向けての課題を設定する ・自分が調べてみたいことをノートにまとめる。
現地学習	○石切り場の見学 ・福光石の特徴や採石の歴史を知り、地域の伝統産業と石見銀山の関係を知る。 ○温泉津町の町並み周辺見学 <u>西念寺、愛宕山、龍御前神社、西楽寺、恵光寺、龍沢寺</u> ・温泉津の町には多くの福光石が使われていることを学ぶ。 ・温泉津が世界遺産になっている理由や、街並みの発展の様子を見て学ぶ。 ○見学 <u>世界遺産センター、大久保間歩、釜屋間歩</u> ・温泉津町と石見銀山との関わりについて教えていただく。 ・間歩の見学をして、当時の銀生産の様子を知る。 ○温泉津町取材活動（温泉津町民、温泉津の観光客対象） ・取材活動から、住民や観光客の町に対する思いを知り、まとめの学習に生かす。

事後学習

○世界遺産である温泉津町を紹介しよう

- ・現地学習等で分かったことを文章やグラフにまとめて、パンフレットを作成する。
- ・完成したパンフレットを通して互いに見合い、意見交換をする。
- ・ホットスプリングフェスティバルに展示をして、自分達の考えを発信する。

5. 実際の学習の様子



事前学習 院生との世界遺産学習



現地学習 石切り場



現地学習 温泉津町にて



現地学習 大森町にて



現地学習 温泉津町にて取材活動



事後学習 パンフレットの展示

6. 学習の成果と課題

- ・世界遺産に対する理解が深まった。
- ・石見銀山や温泉津町が世界遺産に登録された意味が理解できた。
- ・世界遺産（石見銀山）について、もっと調べてみたいと思う児童が増えた。
- ・温泉津町や石見銀山を守っていききたいと思う児童が増えた。
- ・自分の住む温泉津町を誇りに思う児童が増えた。
- ・筑波大学院生との世界遺産についてのワークショップを通して、世界遺産についての考え方は立場によって異なるということを知り、折り合いをつけながら遺産を守っていることを理解できた。
- ・温泉津町民や観光客へのインタビューを通して、温泉津町の良さが伝わっていなかったり、もっと住みやすい町になることを望んでいる人がいたりすることを知り、これからの温泉津町を考えていくよいきっかけになった。
- ・今回は、大森町での現地学習を仙の山を中心に行ったが、この学習の展開からは大森の街並みを見学する必要があった。
- ・ガイドの会の方による現地での案内も有意義だったが、学芸員など専門職の方の案内も活用したいと感じた。
- ・現地学習が一度しか確保されていないことが、より柔軟に授業を展開することを難しくしていると感じた。

平成25年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年、人数 第6学年 人数36名
2. 実施時期 平成25年6月～7月、10月～11月
3. 学習のねらい 石見銀山遺跡や仁摩町と銀山の関わりについて学び、ふるさとへの誇りと郷土を愛する気持ちを培い、地域遺産を大切にし、未来へ伝えていこうとする気持ちを育てる。
4. 学習内容 『輝く！石見銀山』
 - I 石見銀山遺跡について調べる
 - ①「世界遺産」について学ぶ
 - ②「石見銀山は何をしたところなのか、なぜ世界遺産になったのか」について学ぶ
 - ③興味のあることについて調べる
 - ④大久保間歩コースを歩く、世界遺産センターの見学
 - ⑤現地学習のまとめ リーフレットづくり
 - II 石見銀山と仁摩町との関わりについて調べる
 - ①宅野町について調べたいテーマを持ち、グループごとに探検
 - ②鞆ヶ浦街道をたどる
 - ・永久鉱山跡（大国）
 - ・土橋や街道沿いの石碑・石仏
 - ・鞆ヶ浦港（馬路）
 - ③現地見学のまとめ
 - ④疑問に思ったことや興味のあることについて調べる
 - ⑤学習したことを発信する『仁摩の宝 時を越えて今・・・』
 - ・学習発表会
 - ・大国地区文化祭
 - ・温泉津小との合同学習会

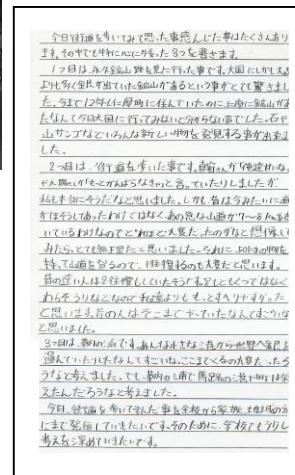
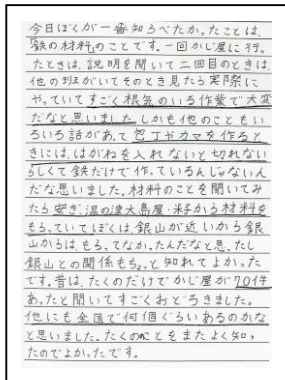
5. 実際の学習の様子

【事前学習】

まず、世界遺産とは何か、日本ではどのようなところが世界遺産に登録されているのかをDVD「守ろう地球のたからもの 豊かな世界遺産編」や写真、地図帳を用いて調べた。そして、石見銀山についてDVD・冊子「知ろう！探ろう！石見銀山」、パンフレットを活用して調べ学習を実施。石見銀山の銀が世界に大きな影響を与えたこと、有名な武将も関わっていること、昔の人の鉱山技術に驚くとともに、興味を持ち、もっと知りたい、自分たちで調べたいという思いを抱くことができた。

【現地学習】

- ・ 7月4日「世界遺産を巡る～大久保間歩コース」
「世界遺産センター見学、灰吹法実演見学」
- ・ 10月10日「宅野町探検」



- ・ 10月17日「軒ヶ浦街道をたどる」



【学習したことの発信】

- ・ 11月2日学習発表会 ・ 11月17日大国地区文化祭 ・ 11月26日温泉津小との合同学習会



6. 学習の成果と課題

◎成果

- ・ 現地見学やボランティアガイドや地域の方から話を聞く活動、調べ学習を通して、地域に昔から大切にされているものや価値観、それを支えてきた人々の思いに気づくことができた。
- ・ 自分たちの住んでいる仁摩町のことをさらに好きになり、もっと知りたいという思いや大切にしていこうとする気持ちを育むことができた。
- ・ 学習を通して学んだことや感じたこと、地域のすばらしさを全校児童や保護者・地域、他校の同級生に広く発信することができた。

◎課題

- ・ 地域学習を系統立てて整理し、学年間のつながりや学びを高め、ふるさと仁摩を語る継承者であるという意識や意欲につながるよう、今後も地域と連携して実践を積み重ねていきたい。